

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	学生若者を蘇らせる手放す貢献プロジェクト
事業名(副) <small>※任意</small>	企業SDGsサポートと中古靴市場の創造

入力数 主 20 字 副 20 字

実行団体名	株式会社 革靴をはいた猫
資金分配団体名	公益財団法人 信頼資本財団

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	④働くことが困難な人への支援
	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	⑥地域の働く場づくりの支援
	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会 の課題	
----------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_4.質の高い教育をみんなに
_12.つくる責任つかう責任
_17.パートナーシップで目標を達成しよう
_3.すべての人に健康と福祉を

実施時期	2021年 5 月 ~ 2022年 2 月	事業対象地域	特定地域 □ (京都・関西)	<p>【助成期間のメインターゲット】</p> <p>① コロナ禍で精神的な孤立を深める大学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で入学した新入生 ・入学後半年以上大学に一度も足を運ぶ機会がなく、2回生になっても友人がいないケースが多い ・支援室登校、不登校の学生 ・コミュニケーションが得意でなく友人がでぎづらい ・学生はオンライン化でますます孤立している ・支援室にすら辿り着かず大学から連絡を取っても音信不通になっている学生がいる ・就職活動につまずく学生 など ・オンライン化に柔軟に対応できない学生やコロナ禍で傾いた業界へ就職を希望していた学生が道を見失うケースが多い <p>[解決策]</p> <p>多様な学生と一緒に取り組めるプロジェクトをつくり、入りやすい入口を用意することでコミュニティに迎える</p> <p>② コロナ禍で経済的な課題を抱える大学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイト先を失った/バイト先が見つからない学生 ・飲食店などコロナ禍の影響を強く受ける業界でバイトをしていた学生がシフトの削減やバイト先の廃業によって収入を失ったり、収入が安定しない不安を感じている ・酷いケースだと奨学金の追加審査が通らなければ退学せざるを得ない学生もいる <p>[解決策]</p> <p>本事業のコミュニティを運営するコアメンバーとして一定以上の働きが見込める学生に対してアルバイト賃金という形で支援を届ける (10名を予定)</p> <p>【助成期間終了後に支援が届くことを目指すターゲット】</p> <p>③ コロナ禍で見えづらくなったひきこもりの若者</p> <p>④ コロナ禍で支援が届きづらくなった障害ある若者</p>	<p>コロナ禍で深刻化している学生の精神的な孤立は、見えづらいことが大きな課題である。</p> <p>大学も学生の状況調査に力を注いでいるものの、成績優秀者で普段は明るく「まさかこの子が」という学生が追い詰められて深刻な事態に陥ったりするケースもある。</p> <p>コロナ以前でも中規模の大学では各大学100名ほど精神的に孤立して支援質に通う学生がいた(当然、支援質に通うことなくフェードアウトしたり、問題なく見えて卒業した後に社会の中でさらなる孤立状況になるケースもある)。</p> <p>コロナ禍でこうした学生が飛躍的に増加している兆候は随所に見られる。</p>
				<p>事業対象者： (助成で見込む最終受益者)</p>	<p>事業対象者人数</p>

I. 団体の社会的役割

<p>(1) 申請団体の目的</p>
<p style="text-align: center;">— 与え、分かち合う存在へ —</p> <p>他者や社会に貢献できる人生は豊かなものです。一方、「自分は誰の役に立ってない」と感じる日々は孤独の極地です。社会には「ひきこもり」や「障害者」という言葉があります。こうした概念は、時に若者の可能性を閉ざしてしまいます。また、自ら命を絶つ若者も数多くいます。</p> <p>私たちは、あらゆる若者が「靴」を通して本来持っている可能性に気づき、一人また一人と立ち上がる連鎖を広げる企業です。</p> <p>(198文字)</p>
<p>(2) 申請団体の概要・事業内容等</p> <p>革靴をはいた猫は2017年の創業以来、出張靴磨きサービスを始め、靴磨き・修理の専門店、企業の障害者雇用支援と事業を広げました。</p> <p>現在、履かなくなった靴を若者育成のために寄付してもらい再生販売する「手放す貢献プロジェクト」を実施中です。</p> <p>大丸京都店や京都信用金庫の協力を得て既に1000足を超える靴が集まり、若者の活性化事業を本格化しようとしています。</p> <p>蘇った靴は「思いをのせた中古靴」として事業化を予定しています。 (200文字)</p>

II. 事業の背景・社会課題

<p>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</p> <p>「若者の孤立・孤独」がコロナ禍で深刻化している。外出自粛やテレワーク推進によって、孤立・孤独が見えづらくなり、社会の混乱の中で支援が後回しになることが懸念される。孤立する若者は様々な総称で呼ばれる。障害者、ひきこもり、支援室登校、若手社員のメンタルダウン。ひきこもりは京都全域で2万4千人いる(京都市・京都府の担当部局に調査)。年間1000件の相談があるが有効な支援が届くのは50名に満たない。新しいアウトリーチや居場所と就労の中間的な支援が求められている。</p> <p>障害者福祉事業所の収益構造は人数に応じた助成である。そのことが就労支援に限界を生じさせている。法定雇用率を満たす企業努力はあるが、雇用した方の可能性を十分に活かしきれないという相談は多い。障害という概念が本人や周囲の人に固定観念を作りその枠から出られないのである。</p> <p>大学では居場所がなく悩みを抱えて支援室に通う学生がいる。2013年から続く私たちの活動で中規模の大学には各100名ほど支援室登校の学生がいることがわかっている。支援室は居場所としての機能はあるが、主体的に活動する機会は提供できない。支援室に繋がった学生が日本インクルージョン協会に紹介されるケースも多い。</p> <p>孤立・孤独の課題を抱える若者は就労後もメンタルダウンしやすく就労したからと言って安心はできない。こうして孤独は企業や地域の活力低下につながっていく。</p> <p>それぞれの課題に狙いを定めたアプローチは存在するが、専門支援の枠組みを超えて「若者が仲間と出会い、活動を通して活性化する包括支援」はまだない。様々な総称で括られる孤立・孤独がコロナ禍で深刻化する中、「若者が孤立から脱出し自分なりの形で社会に参画できるプロセス」を社会実装することが急がれる。</p> <p>特に、大学生はコロナ禍を機に精神的な孤立を深めるケースが多発しており(龍谷大学学長室に調査)、就職氷河期のような大規模な問題に発展しかねない。 (796文字)</p>

III. 申請事業

(1) 申請事業の概要

「手放す貢献プロジェクト」を社会実践教育プログラムとして展開して、若者活性化コミュニティを形成する。
 履かなくなった靴を再生・循環させる社会的な活動経験を通して、若者の社会的な動機を引き出す。並行してマインド教育を実施して若者のレジリエンスを高める。
孤立した若者がプロジェクトを通じて仲間に出会い、マインドを変化させる機会をデザインする。

連携団体のネットワークと若者の力を活かして、大規模かつ戦略的に広報して多様な若者と繋がるチャンネルをつくる。
受益者に限らず社会的意欲が高い若者を積極的に巻き込み、若者が相互に刺激を受ける環境をつくる。 地域に根ざした就労支援機関と連携して出口も確保する。 (294文字)

入力数 ## 字

(2) 事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

コミュニティを60名に拡大し15名の受益者がいる状態を目指す。
 「手放す貢献プロジェクト」に靴磨き以外の役割が生まれて若者が強みを活かして活躍できるようにする。**事業の認知が高まり口コミでリーチ**が広がり始める。
若者同士が障害やひきこもりといった概念を超えて「共に学び高め合う仲間」になれるコミュニティの文化が醸成されている。
企業・大学を中心にスポンサーを獲得し、中古靴事業も本格化して財源と就労機会をつくる。 (200文字)

入力数 ## 字

(3) 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
① 孤立する若者（ひきこもり、障害者、支援室登校、メンタルダウン）が参加しやすい「60名の若者コミュニティ」を形成する	1、孤立する若者のコミュニティ参加人数	コミュニティを登録性に参加人数を確認する（1、2）	【達成を目指す目標】 1：15名	1、2 2022年2月
② 若者コミュニティの社会実践教育プログラムとして「手放す貢献プロジェクト」を運営する	2、若者コミュニティの全体の人数	コミュニティのコアメンバーとしてアルバイト契約を結ぶ若者をカウントする（3）	2：60名	3 2021年9月
③ 若者のレジリエンスを高めるマインド教育プログラムを運営する	3、経済的課題を抱える若者のバイト人数	その際、ひとりひとりの経済的な事情をヒアリングしてアルバイトかボランティアかを定める	3：10名	4 2022年2月
④ 地域の機関・団体と連携して孤立する若者が「①～③の教育エコシステム」に参加する複数のルートを構築する	4、本人または家族からの問い合わせ件数	問い合わせ窓口を事務局に一元化して件数と内容をデータベース化する（4）	4：20件	5、6 2022年2月以降
⑤ 地域の就労支援機関（京信人材バンクを予定）と連携して、変化した若者が就労に向かいやすい環境を構築する	5、孤立状態から就職活動を始めた人数	口コミで来た問い合わせも事務局に集約してもらうように周知徹底する	【翌年以降に達成する目標】 5：5名	
	6、孤立状態から就労した人数（翌年度以降に本格的に追いかけると）	コミュニティ参加者と日常的にコミュニケーションを取る中で就労意欲や就職活動の状況を把握（5）	6：3名	

(4) 活動

【活動の全体像】

●助成期間（2021年5月～2022年2月）

革靴をはい猫が実施している「手放す貢献プロジェクト」を社会実践教育プログラムに発展させる。「手放す貢献プロジェクト」を軸に社会的意欲の高い若者、何かやりたいが打ち込むものを見出せていないボリュームゾーンの若者、孤立している若者を集めてコミュニティ化する。

コンソーシアム参加団体を始め、これまで京都エリアを中心に構築してきたネットワークを活かして**若者を集めるルートを構築**する。連携する機関・団体からの紹介や口コミだけでなく、京都地域に広報物をリアル・オンラインで展開することで認知度を高める。

集まった若者は「手放す貢献プロジェクト」の中で**各々の興味関心や強みを生かした役割を持ち、プロジェクトを通じて仲間をつくっていく**。並行して**レジリエンスを高めるマインド教育や、動機を引き出すエンパワメントの仕掛けを実施して若者の内面を変化**させる。

京信人材バンクを始めとした地域の就労支援機関と連携して、就労を目指す若者がコミュニティにしながらシームレスに仕事を見つけられる環境を整えていく。

若者のコミュニティ拡大との兼ね合いを見ながら企業や大学をスポンサー化するための動きを展開する。コンソーシアム参加団体を持つスポンサー獲得のノウハウやネットワークを活用して、企業や大学が協力しやすい形をヒアリングしていく。
助成期間にスポンサー獲得の営業開拓を開始して助成終了までに翌年の活動資金を獲得することを目指す。

2021年5月～2022年2月

<p>●<u>助成期間終了後（2022年3月以降）</u></p> <p>助成期間に「<u>障害やひきこもりといった概念に囚われず共に学び高め合うコミュニティの文化</u>」をつくることで<u>翌年以降は量的な拡大</u>を目指していく。</p> <p>「手放す貢献プロジェクト」をさらに発展させると共に、集まった学生若者から新しいプロジェクトの目を探して社会実践教育のバリエーションを増やす。</p> <p>マインド教育の内容も日本インクルージョン協会を中心にブラッシュアップして、外部の団体（PHP研究所など）とも連携して<u>教育の質的向上</u>を図る。</p> <p>コミュニティの質と量に応じて孤立する若者のアウトリーチに更に力を入れ、家族・支援者・友人からの口コミや、本人からの問い合わせを増やす。</p> <p>「<u>手放す貢献プロジェクト</u>」は助成期間の活動を経て本格的に「<u>全く新しい中古靴事業</u>」として発展させる。 本事業の財源の確保と共に、靴磨き・靴修理・靴販売の拡大に伴い<u>若者を直接雇用できるキャパシティを広げていく</u>。</p>	<p>2022年3月以降</p>
<p>【若者を集めてコミュニティ化する】</p> <p>本事業のポスターで京都市中をジャックする戦略を実行する。デザインは京都芸術大学と京都市立芸術大学の学生を中心に外注する。ポスターにはQRコードでPR動画が流れるようにする（動画の制作は外注を予定）。</p> <p>本事業のランディングページをベライチのような簡易ツールで京都のIT系の大学学生に制作してもらいリンクを貼る。ランディングページから活動への申し込みやイベントへの参加ができるようにする。 京都学生祭典と大きくコラボして、彼らの活動の新展開として共同で企業のスポンサーを取る（MIYACOが既に学生祭典をサポート中）</p> <p>・<u>ロコミ&アンバサダーマーケティングで人若者を集める</u> 今までの応援者に本プロジェクトで若者を募集していることを知らせるSNSとビラ配りで情報拡散をしてもらう。 身近に参加させたい若者がいる場合は紹介してもらう。アンバサダー的に関わる大人も募集して更に発展的な応援をってもらう。 龍谷大学チーム・ノーマライゼーション（後述）の学生を中心として、若者の口コミ戦略を立てて実行する。 京都学生祭典、グローバルセンターに登録している学生、QUESTIONを利用している学生、京都市ユースサービス協会の登録学生、京信起業家塾の参加者など既存のコミュニティに戦略的に学生アンバサダーを作っていく、本事業への参加者を多くのコミュニティから集めて口コミの拡散力を高める。</p> <p>・<u>イベントで若者を集める</u> MIYACOと共同で元気な若者を集めるためのイベントを企画開催する MIYACOが予定している既存のイベントで集まった若者を誘導する。QUESTIONで企画されている既存のイベントに集まった若者を誘導する。</p>	<p>2021年5月～7月</p> <p>2021年5月</p> <p>2021年6月～9月 7月までに20名、9月までに40名を集める 初期に活動力の高い学生を集めて後から孤立している学生が入って来られるようにする</p> <p>2021年5月～8月</p>
<p>【社会実践教育プログラム：手放す貢献プロジェクト】</p> <p>・<u>手放す貢献プロジェクト（社会実践教育の場）</u> 「手放す貢献プロジェクト」は革靴をはいた猫が中心となって運営する（連携団体のサポートは得る）。 <u>自宅に眠る靴を寄付で集めて、蘇らせて、次の持ち主に届ける活動を軸とする（環境問題／教育活動の面から社会的な活動）</u>。 手放す貢献プロジェクトの中で、<u>広報部門・渉外部門・職人部門・マーケティング部門などを設けて若者の強みに合わせて配属</u>する。 靴磨きで集まった靴を再生させることは原則すべての若者に取り組んでもらう（職人部門の学生から責任者を立てる）。 靴修理で靴を再生させることについては特別に意欲のある少数精鋭で取り組んでもらう（簡単な修理のみ）。 靴を集める活動はマーケティング・広報チームを立てて戦略的に動かす（各部門の責任者を学生から立てる）。 ex.)Web展開、回収BOX設置の法人へのアプローチ（革靴をはいた猫のメンバーが帯同する）など 蘇った靴の販売方法を企画チームを立てて戦略的に動かす（責任者は学生：既存の販売については革猫社員が責任者） ex.)QUESTIONでの靴販売イベント、Instagramを活用したEC販売 <u>「9.23靴磨きの日のイベント」の企画・運営</u>を学生主体で実施する（ルームシアターで毎年9月23日開催している企画） <u>著名人の靴とインタビューを集める企画</u>（マーケティング広報チームと連動） ex.)革靴をはいた猫リピーターの武豊氏 ※福祉事業所（龍谷大学カフェ樹林）に通う障害者の就労訓練と連動させて障害ある若者も活性化（既に実施中）</p>	<p>2021年5月～6月 初期学生メンバーと手放す貢献プロジェクトを小規模にトライアル&エラーして土台をつくる</p> <p>2021年7月～8月 手放す貢献プロジェクトが組織的に回り初めて 学生アルバイトの人数も増えていく</p> <p>2021年9月 ルームシアターでイベント開催</p> <p>2021年7月～ 集まった学生若者と有名人のインタビュー企画</p>
<p>【若者のレジリエンスを高めるマインド教育など】</p> <p>・<u>自己紹介&チームビルディング</u> <u>対話型鑑賞講座（インクルージョン協会が実施している教育コンテンツ）、ボードゲーム</u>を使ってお互いを自然に知れるようにする。 開催頻度は若者の集まりに従って随時（できるだけ新メンバーが入った時には開催する）。企画・運営は学生から責任者を立てる。</p> <p>・<u>レジリエンスを高める対話型マインド教育（週に1回開催：追加で若者が自主的に開催できるようにする）</u> 日本インクルージョン協会が企画・運営する。学生の中でやる気と適性がある人にサポートしてもらう。 手放す貢献プロジェクトを成功させるために若者が自主的にマインド教育に参加したいと思えるようにコーディネートする。 <u>経営者などの動画や書籍を活用してケーススタディのように原則を学べるようにする</u>。全てのメンバーが週に1回参加できるように週に2～3日程開催。 若者が主体的に「この人の動画を観て意見交換しよう」といった主体性が生まれてくることを目指す。</p> <p><u>不定期で企業経営者や大学教授などにゲストとして協力を依頼する</u> ex.)PHP研究所清水前社長、龍谷大学入澤学長、京都経営者協会小畑会長など (PHP研究所清水前社長、龍谷大学入澤学長、松栄堂畑常務、ウエダ本社岡村社長などは過去にこうした場に出てきてもらった実績あり) ※若者のマインド教育と活動の場を見てもらうことでスポンサー営業につなげる※</p>	<p>※マインド教育は学生若者の集まりや様子に合わせて随時実施する</p> <p>2021年7月～12月</p>

<p>・ユメガタリ（一人一人の内面を場に引き出しお互いに刺激を受け合うようにする） 自分がどのように生きていきたいのかを深く見つめて仲間に語るイベント。 コミュニティの学生が数珠つなぎに話しているようにコーディネートする。動画を撮影して後から入ったメンバーも視聴できるようにする。</p> <p>学生同士で次に話して欲しい人を指名する（強制にならないように注意）。ユメガタリの準備に際して引き出し役が伴走支援する（個人面談の役割）。</p> <p>不定期で学生以外の語り手の回を設けることで社会的な視点や年齢と共に生まれる動機の変化などを感じられるようにする。 元気がなかったメンバーが語り手になることで、内発的な動機を引き出し、コミュニティの中で自分の存在を受容してもらう感覚を得る。</p>	<p>2021年6月～2022年2月</p>
<p align="center">【翌年以降の財源確保に向けたスポンサー開拓】</p> <p>・収益モデルの企画 交流のある企業、大学、経済団体などに事業モデルと収益モデルを伝えてヒアリングを実施する（MIYACO、グローバルセンターのネットワークを活用） 企業、大学のメリットは下記を想定 －プロジェクトの広報物・Webサイトへの企業名・大学名の掲載 －法人への出張靴磨きサービスの提供（革猫か学生含むかは要検討） －本事業の若者への企業説明会の独占開催の権利</p> <p>・企業のスポンサー開拓 学生の教育という形で企業の経営者などに若者と交流してもらった上でスポンサーになってもらうよう依頼する。 スポンサー第1号から紹介営業で広げる（既に関係性のあるPHP研究所、京都経営者協会、京都信用金庫などからアプローチする）</p> <p>・大学のスポンサー開拓 学生の教育という形で大学教授や学長などに若者と交流してもらった上でスポンサーになってもらうよう依頼する。 既に全面的に応援してもらっている龍谷大学入澤学長から広げていく。</p> <p>・サービスとしての契約開拓 長期的にスポンサーではなくサービス利用という形態に移行する。ヒアリング段階でサービス利用の芽があればニーズに応じてサービスとして提案。</p>	<p>2021年7月～9月</p> <p>2021年10月～1月</p> <p>2021年10月～1月</p> <p>2021年10月～1月</p>

IV. 事業実施体制

<p>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</p>	<p>事業責任者：後藤（取締役） 手放す貢献プロジェクト運営（現場担当者）：魚見（代表取締役）、宮崎（取締役） 学生コミュニティオーガナイザー：竹内（龍谷大学チーム・ノーマライゼーションの昨年代表）</p>
<p>(2)他団体との連携体制</p>	<p>【コンソーシアム参加団体と大まかな役割】 革靴をはいた猫：事業全体の管理、手放す貢献プロジェクトの企画・運営、若者コミュニティの運営 日本インクルージョン協会：マインド教育の企画・運営、若者コミュニティの運営サポート MIYACO：若者を集めるの企画・実行、若者コミュニティの運営支援、スポンサー開拓</p> <p>【その他、連携団体】 NPO法人グローバル人材開発センター：若者集めのサポート、コミュニティ運営のアドバイザー、イベント開催協力、スポンサー開拓支援 https://globalcenter.jp/ 京信人材バンク：若者の就職活動およびマッチングの支援 https://www.kyoto-shinkin.co.jp/jinzai/ 京都市ユースサービス協会：若者への情報発信 http://ys-kyoto.org/ 京都市大学政策室：若者への情報発信（学生アプリの活用）、大学との連携支援 京都市保健福祉局：ひきこもり支援部局として連携 / 京都市子ども若者はぐくみ局：若者支援部局として連携 京都府家庭総合支援センター：ひきこもり支援部局として連携</p> <p>チーム・ノーマライゼーション：若者コミュニティの中核を担う https://www.facebook.com/team.normalization/ － 2013年に龍谷大学深草キャンパスのカフェを拠点に「障害者やひきこもりを含む若者が共に学び高め合う場をつくること」をミッションに活動を開始 － 革靴をはいた猫の母体となった団体であり、15名の現役大学生と50名を超えるOBOGが参加している</p>
<p>(3)想定されるリスクと管理体制</p>	<p>コロナ感染リスクを考慮して、手放す貢献プロジェクトは小ユニットごとに活動 また、大規模な集会は可能な限りオンラインで実施する リアルで集まる場合は、検温、アルコール消毒を実施する</p> <p>コロナ感染拡大時には、オンラインベースで活動できるようにする （革靴をはいた猫と日本インクルージョン協会は、コロナ発生時にオンラインで靴磨き&マインド教育を学生・若者に実施した経験あり）</p>

V. 関連する主な実績

<p>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</p>			
<p>①コロナウイルス感染症に係る事業</p>			
<p>本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している(予定も含む)</p>	<p>有</p>	<p>無</p>	<p>有の場合その詳細</p>
<p>本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。</p>	<p>無</p>	<p>※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）</p>	

(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績

革靴をはいた猫および日本インクルージョン協会の設立の前身となる活動は、2013年に龍谷大学から始まりました。

現在まで続く8年の歩みから、障害者やひきこもりといった枠に囚われない包括支援のニーズと有効性を実証してきました。

福祉事業所で就労は難しいと言われていたメンバーが革靴をはいた猫で活躍し、障害認定で気を落としていたメンバーが見事に復活し、大学の支援室やキャリアセンターでどうしようもなく紹介されたメンバーがコミュニティの牽引役として大活躍したりと数多くの事例があります。

8年間で実証してきた「若者包括活性化コミュニティ」を本助成で社会実装することが私たちのミッションであると考えています。

既に「**手放す貢献プロジェクト**」には1,000足を超える靴が集まっており、若者が集えばすぐに活動できる状況です。

また、**革靴をはいた猫の母体となったチーム・ノーマライゼーションの後輩たちとも日々連携しており15名ほどのコミュニティは既にあります。**

彼らとコンソーシアム団体を軸として、コロナ禍で孤立する学生若者を集めれば必ず社会に求められる事業としてテイクオフできると確信しています。